

島根県隠岐の島におけるオオクチバスの生息分布域および推定生息尾数

曾我部共生 (隠岐ジオパーク戦略会議)

1.背景

島根県隠岐の島においてオオクチバス(*Micropterus salmoides*)が1994年に人為的に移入された。隠岐の島は242km²の面積を有し、人口15410人(2012年12月1日現在)の日本海の離島である。隠岐の島には50を超えるため池があり、島内でオオクチバスが拡散している。本発表では、隠岐の島の中で拡散したオオクチバスの生息分布域とその資源量の推定結果を報告する。

2.方法

生息分布域の調査は、隠岐の島のため池やダム(砂防ダムに水が溜まったものも含む)および河川において、目視および釣りによって生息を確認した。

生息尾数推定の調査では、DeLury法と標識再捕法を用いて生息尾数を推定した。漁獲方法は、DeLury法では釣獲を用い、標識再捕法では刺し網を用いた。

男池についてのみ、漁期ごとの漁獲努力量を一定にすることが難しい地形であることから標識再捕法を適用した。

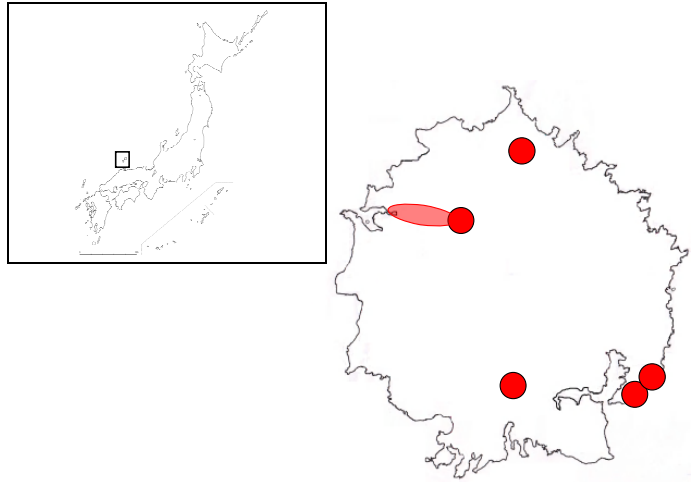


図1.隠岐の島におけるオオクチバスの生息場所

3.結果

隠岐の島の4つのため池と1つのダム、およびそのダムの下流の河川においてオオクチバスの生息を確認した(図1)。生息尾数推定調査は、アクセスが非常に困難な女池を除く、オオクチバスの生息が確認された4箇所の閉鎖水域において行なった(表1)。

今回の調査で漁獲されたオオクチバスの個体サイズはその水域の有効集団サイズであった。そのため、オオクチバスの推定生息尾数はその水域に生息する有効集団サイズ(N_e)の尾数を示している。

4.まとめ

隠岐の島においてはオオクチバス移入から18年が経ち、現在は5箇所の水域と1つの河川に拡散していた。またそれぞれの水域で十分に定着し、資源量を保っていた。

表1.各調査における推定生息尾数と生息密度

調査地	水域表面積(ha)	推定尾数(尾)	生息密度(尾/m ²)
男池	14.4	369	0.0026
糠谷	1.3	104	0.0083
西の山	0.7	152	0.0216
郡川ダム	10.6	570	0.0054
女池	6.9	-	-